

# 【きらり】



平成30年 1月 9日(火)  
天龍小学校 校長室だより  
熊谷 三枝

## 「新しくなる」ということ (始業式講話より)

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

穏やかな三が日、3学期初日の今日もびっくりするほど温かな雨の日となりました。年末年始休み、天龍村ではインフルエンザが流行ってきているとお聞きしました。皆さんは元気に過ごせましたか。

いま、6年生のOさん、3年生のKさんが、3学期の目標を発表してくれました。Oさんは、①自覚②判断③敬語を使うこと、Kさんは①計算を速くすること②行動力③運動④気づきを挙げてくれました。ふたりの発表にあったように、3学期48日間は今の学年のまとめとともに、次の学年へのステップとなる時です。自分のめあてに向かって、いい学期にしたいですね。

わたしは子どものころから、疑問に思っていたことがあります。新しい年になると、どうして景色がすがすがしく見えるのだろうか？ 空気の中に、明るく感じさせる何かが混ざってくるのはなぜなのだろうか？ ということです。12月31日と1月1日の間に、特別な何かが入って来るわけではありません。でも、不思議に新鮮に感じますよね。

わたしたち人間の身体をつくっている細胞、例えば血液の中の赤血球は、実は120日くらいでどんどん新しくなっているのだそうです。一見変わらないように見えて、実は毎日古くなり、毎日新しくなっている、それが「生きている」ということだそうです。わたしたちの気持ちも、そうやって毎日古くなり、毎日新しくなっていくことが必要なのかもしれません。気持ちは目には見えませんが、わざわざはっきり分かるような節目として、「新年」が考えられたのかもしれないですね。

長野県の詩人、高橋忠治の詩を紹介します。

「きょうの ぼく」 高橋忠治  
新しい年がやってきて  
きのうが  
きょねんになって  
きょうの ぼくは  
きのうの ぼくで なくなった。

お宮の大杉に  
新しい しめ縄 張ってある。  
大杉は 新しい年になって、  
一年古くなった。

新しくなるって 古くなることか。  
古くなって 新しくなる。  
ぼくも、  
古くなって 新しくなる。

「定本 高橋忠治全詩集」より

こうやって考えてみると、時が過ぎていくこと、成長していくこと、生きていくこと  
って不思議で、どこかわくわくします。今年の新しい自分をしっかりと生きて、お互い  
成長していきましょう。

- ♪ 今年は坂部の冬まつりと大河内池大神社例大祭におじゃますることができました。文化のゆかしさ、お祭りを大事にされている皆様の思いを感じて帰ってきました。外から来た方々へのもてなしの心も温かく感じました。
- ♪ 本年も変わらず、学校へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。【K】

